

Clavinova®

MLP-51 / MLP-11

取扱説明書

YAMAHA

このたびは、ヤマハ・クラビノーバMLP-51/MLP-11をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

MLP-51/MLP-11は、伝統に培われた楽器づくりと音楽教育の感性、そして先進のエレクトロニクス技術を結集して完成させた、ヤマハ・ミュージック・ラボラトリーシステムの生徒用鍵盤楽器です。

ピアノの原理を応用した小気味良いタッチ感覚のAE鍵盤をはじめ、音色にはリアルで高品位なAWM音源、効率的なレッスンを可能にするコミュニケーション機能、洗練された豊富な機能を採用し、楽しみながら演奏能力と感性を育て上げられますことを願い開発いたしました。さらには、デジタル楽器の統一規格・MIDI端子も搭載しており、システムとしての将来性も充実しています。

本書では、クラビノーバの魅力を充分にご理解いただけますよう、正しい取り扱い方法を説明しています。ぜひ、ご一読ください。

目次

	ページ		
ご使用前に	1	ピッチコントロール機能	
各部の名称とはたらき	2	MLP-51	8
演奏までの基本的な手順	4	MLP-11	9
いろいろな機能や効果		パフォーマンスメモリー機能	10
ペダル効果	6	コミュニケーション機能	12
ブリリアンス機能	6	多重録音してみましょう	13
メトロノーム機能	6	MIDIでシステムを拡張	15
リバーブ効果	7	仕様	21
トランスポーズ(移調)機能	7	MIDIインプリメンテーションチャート	22
		サービスと保証	裏表紙

ご使用前に

設置場所



次のような場所でご使用になりますと、故障などの原因となりますのでご注意ください。

- ・窓際などの直射日光の当たる場所や、暖房器具のそばなど極端に暑い場所
- ・温度の特に低い場所
- ・湿気やホコリの多い場所
- ・振動の多い場所

お取り扱い



落としたり、物をぶついたり、上に乗るなど、乱暴に扱わないでください。傷がついたり、故障の原因となることがあります。

電源の処理



ご使用後は電源スイッチを切ってください。

外装のお手入れ



お手入れは、乾いた布でカラぶきするか、汚れのひどい時は少し水で湿らせた布でふいてください。アルコールやシンナー類は、絶対に使用しないでください。また、ビニール製品を上に乗らないでください。

他の電気機器への影響



ラジオやテレビを近くで使用しますと、ラジオやテレビに雑音が発生したり、誤動作することがあります。十分に離して使用してください。

保証書の手続き



お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きをとってください。保証書に販売店印がありませんと、保証期間中でも修理の費用をいただくこととなりますので、充分ご注意ください。

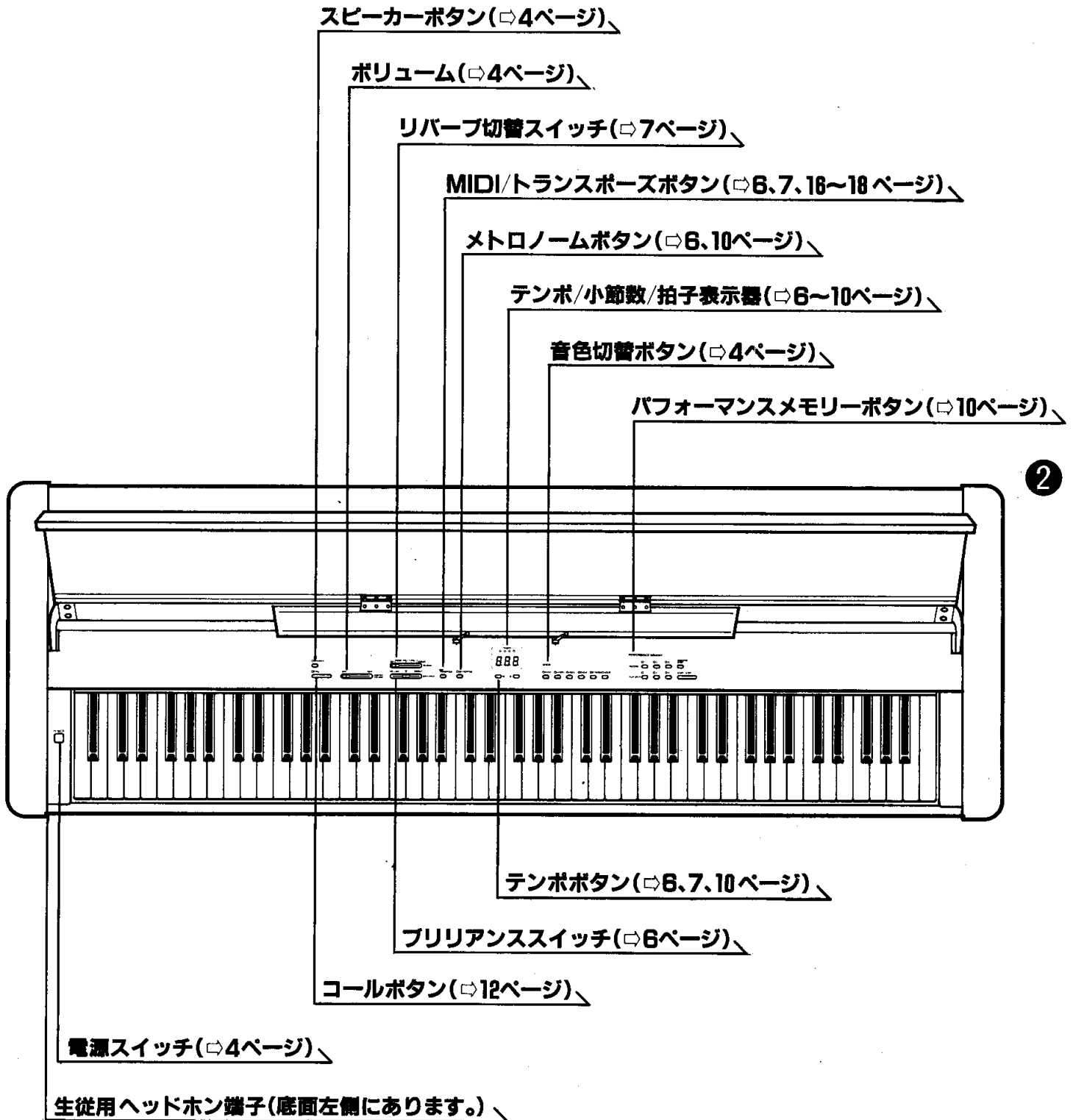
保管



この取扱説明書をお読みになった後は、保証書と共に大切に保管してください。

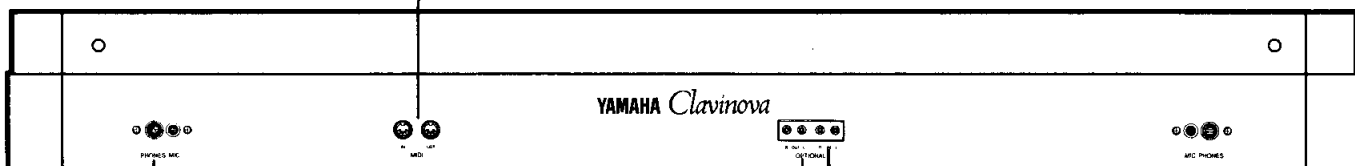
各部の 名称とはたらき

⇒マークのところにくわしく説明してあります。



生徒は、ここに接続したマイク付きヘッドホンで自分の演奏音や先生の声、先生の模範演奏、他の生徒の演奏音を聴くことができます。また、マイクで会話ができます。

MIDI端子(⇨15ページ) \



オプション入力端子 \

外部製品の音を、MLP-51/MLP-11で
いっしょに鳴らすことができます。

オプション出力端子 \

外部製品に、MLP-51/MLP-11の音を
送ることができます。

先生用ヘッドホン端子、マイク端子(右側にもあります) \

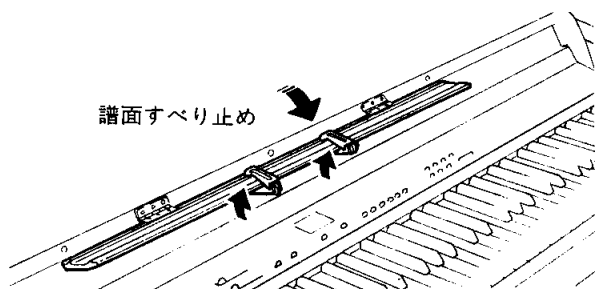
生徒の側まで行って指導する場合には、
ここにマイク付きヘッドホンを接続して、
生徒とヘッドホンでやりとりします。

3

譜面立ての使い方

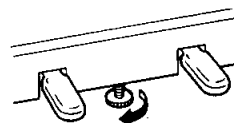
譜面立ては、鍵盤蓋を開けるたびに起こしてお使いください。また、譜面すべり止めを下図のような角度で立ててください。

※鍵盤蓋を閉める時は、譜面立ておよび譜面すべり止めを、必ず元の状態に戻してください。



アジャスターの調整

ご使用前に、ペダル部底面にあるアジャスターを回して床にぴったり付け、ペダル部を安定させてください。



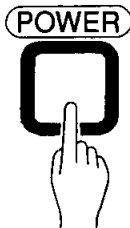
演奏までの 基本的な手順

注意

調整卓の電源スイッチをオンにした後は、MLP-51/MLP-11の電源スイッチを、むやみにオン/オフしないようにしてください。調整卓側で大きなノイズが発生することがあります。

また、鍵盤蓋の開閉を行った時も、電源がオン/オフされますので、むやみに開閉しないでください。

1. 電源プラグを家庭用コンセント(AC100V)に差し込みます。
2. ヘッドホン端子に生徒用のヘッドホンを接続します。(ヘッドホン端子はMLP-51/MLP-11の底面左側にあります。)
3. 電源スイッチをオンにします。



★電源スイッチをオンにした時はピアノの音色が選ばれており、テンポ表示は120になっています。

★電源スイッチを押して約3秒くらいしてから、音を出せます。

★電源スイッチをもう一度押すと、電源が切れます。

★電源スイッチをオンにしたまま鍵盤蓋を閉めても、自動的にオフになりますが、念のため使用後はオフにしてください。

なお、オンにしたまま鍵盤蓋を閉めた場合は、再び鍵盤蓋を開けた時、自動的にオンになります。

4. ヘッドホンでなくMLP-51/MLP-11内蔵のスピーカーから音を出す場合は、スピーカースイッチをオンにします。

ランプが点灯

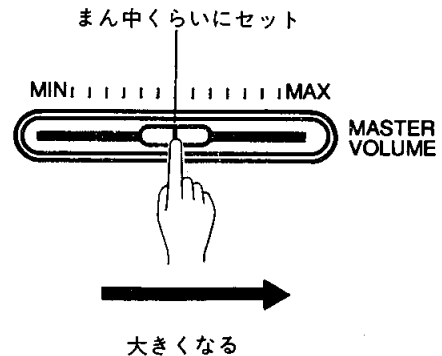
● SPEAKER



★通常はスピーカーオフの状態にしておきます。

★電源スイッチをオンにした時は、いつもスピーカーオフの状態になっています。

5. 音量を調整します。



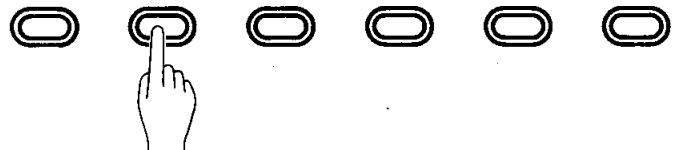
★鍵盤を押して音を聴きながら、ボリュームで調整してください。

6. 音色を選んでください。

VOICE

選んだ音色のランプが点灯

○ PIANO ● HARPSI ○ VIBES ○ CHOIR ○ STRINGS ○ WOOD



★音色を2つ選んで、いっしょに鳴らすことはできません。

★各音色はこんなイメージです。

ピアノ：コンサートグランドピアノの音。

ハープシコード：ハープシコード(バロック感覚の楽器)の音。

メヌエット 作曲：バッハ

Moderato

ハープシコード



バイブ：ビブラフォン(金属的な独特の響きがある楽器)の音。

クワイア：合唱の響きの音色。

野バラ 作曲：ウェルナー

Andante

クワイア



5

ストリングス：弦楽器の音。

ガボット 作曲：ゴセック

Allegretto

ストリングス



ウッド：フルートの音色に似た木管楽器の音。

カルメンより 作曲：ビゼー

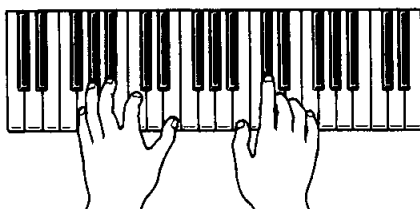
Andante

ウッド



※どの音色を選んだ場合も、押鍵を続けていてもだんだん音が小さくなっていきます。

7. 弾いてみましょう。



いろいろな音色に切り替えて弾いてみましょう。

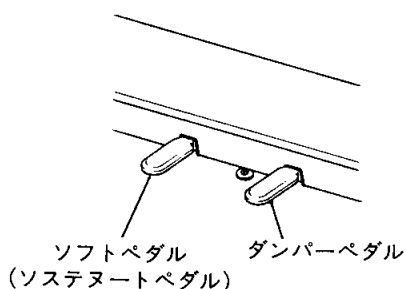
★同時発音数は16音(16音ポリフォニック)です。ただし、メトロノームを鳴らした場合は15音です。

※MLP-51/MLP-11にはペダル効果やリバーブ効果、トランスポーズ機能など様々な機能がありますが、それらは後で順に紹介していきます。

いろいろな機能や効果

ペダル効果

スタンド部には2つのペダルがついており、それぞれに役割があります。なお、左側のソフトペダルは希望に応じて切り替え、ソステヌートペダルとして使用することもできます。各ペダルによる効果をうまく使い分けてください。



ソフトペダルを踏むと………音の響きが柔らかくなります。
 ダンパーペダルを踏むと………音に余韻がついて響きが豊かになります（ダンパー効果）。

ソフトペダルをソステヌートペダルに切り替えた

うえで踏むと………ペダルを踏んだ時に押えていた鍵盤の音だけに余韻がつきます（ソステヌート効果）。

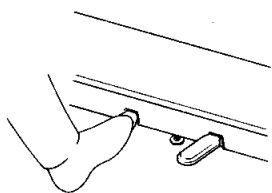
ソフト／ソステヌート切替方法

①MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、

MIDI/
TRANSPOSE



②ソフトペダルを踏みます。

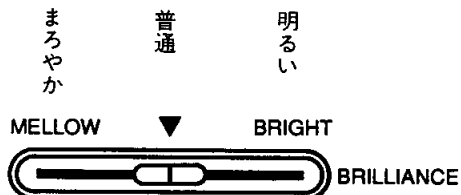


※①②の操作をもう一度すると、ソフト効果に戻ります。

★電源スイッチをオンにした時は、いつもソフト効果が選択されています。

ブリリアンス機能

音の明るさ(音質)を変えることができます。



希望する音の明るさの位置に合わせてください。

メトロノーム機能

メトロノーム音を鳴らすことができます。メトロノームボタンを押すことにより、オン/オフできます。

点灯状態がオン
 消灯状態がオフ

○METRONOME



◆メトロノームの音量調整

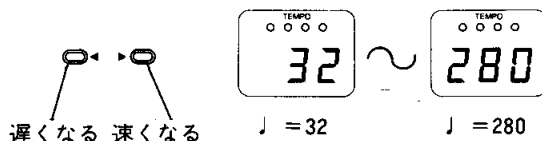
メトロノームの音量を演奏しやすい大きさに変更することができます。

- ①ボリュームを動かして、演奏しやすい音量にします。
- ②メトロノームボタンを押してランプを点灯させ、メトロノーム音の音量を確認します。
- ③メトロノームボタンを押しながら、
- ④メトロノームの音を大きくしたい時はテンポボタンの▶ボタン、小さくしたい時は◀ボタンを押します。（メトロノームボタンを押しながら行う）

★メトロノームの音量は、1～4の4段階の範囲で調整できます。電源スイッチをオンにした時は、いつも2になっています。

◆メトロノームのテンポ調整

メトロノーム音を演奏しやすい速さに変更することができます。♩=32～♩=280の範囲で設定でき、1回押しごとに1増減し、押し続けると連続して増減します。

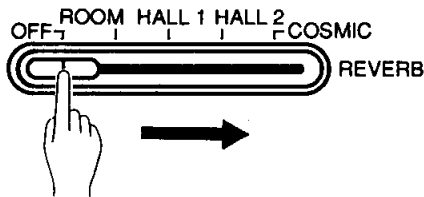


★電源スイッチをオンにした時は、いつも♩=120になっています。

★◀ボタンと▶ボタンを同時に押すと、♩=120に戻ります。

リバーブ効果

リバーブをかけることができます。リバーブをかけると、音の響きが豊かになります。



リバーブ切替スイッチを、希望する響きのところに切り替えてください。

★切り替えによって次のようになります。

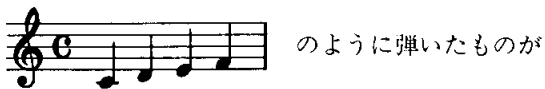
- ・オフ：リバーブはかかりません。
- ・ルーム：響きやすい部屋の中で弾いた時のような音になります。
- ・ホール1：小さめのコンサートホールで弾いた時のような音になります。
- ・ホール2：大きめのコンサートホールで弾いた時のような音になります。
- ・コズミック：こだまのような響きが得られます。

トランスポーズ(移調)機能

押さえる鍵盤(運指)を変えずにキーを変えることができます。また逆に、難しい調の曲を簡単なハ長調の指使いで弾くことができます。歌の伴奏をする時も、歌う人のキーにすぐに合わせられるので便利です。

★-6半音～+6半音(表示は6)の範囲、半音単位でずらすことができます。つまり“ド”の音なら高い方に最大で“ファの#”まで、低い方も最大で“ファの#”までずらすことができます。

たとえば+5半音ずらすと



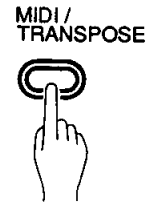
のように弾いたものが



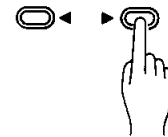
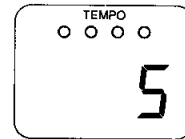
のように鳴ります。

移調の設定方法

①MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、



②テンポボタンで移調量を指定します。
たとえば“ド”の音を“ファ”の音に変えたい時は、5半音高くすればよいわけですから値を“5”にします。



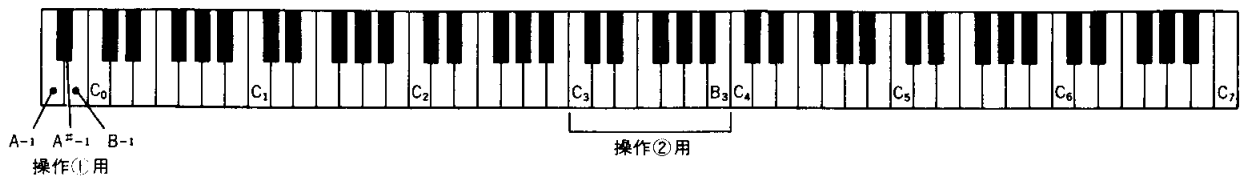
★電源スイッチをオンにした時は、いつも元の高さ(0)に戻っています。

★MIDI/トランスポーズボタンを押しながら◀ボタンと▶ボタンを同時に押すと、元の高さ(0)に戻ります。

ピッチコントロール機能(MLP-51)

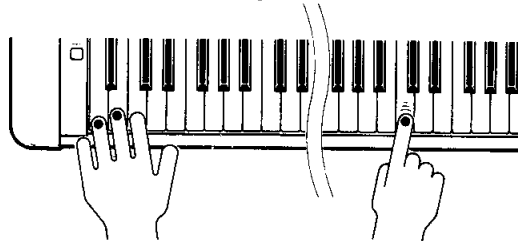
合奏の時などに、他の楽器と正確に音程を合わせることができます。つまり微妙に音程が異なる場合は、この機能を使って他の楽器と音の高さを合わせます。

■音程の合わせ方



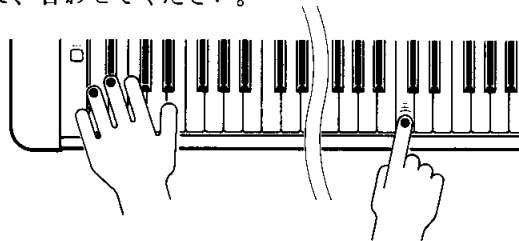
◆音程を上げる時

- ①上の図に示したA-1とB-1の鍵盤を同時に押しながら、
- ②C₃~B₃のいずれかの鍵盤を押します。1回押すごとに少しずつ音程が上がっていきます。音を聴きながらこきざみに音程を上げて、合わせてください。

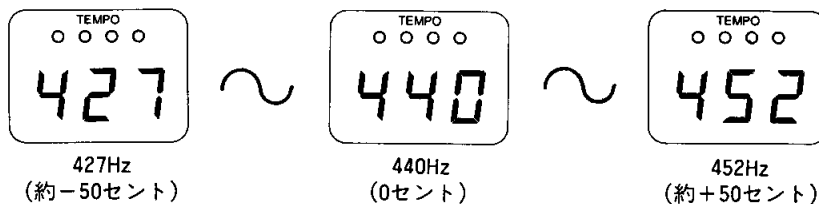


◆音程を下げる時

- ①上の図に示したA-1とA#-1の鍵盤を同時に押しながら、
- ②C₃~B₃のいずれかの鍵盤を押します。1回押すごとに少しずつ音程が下がっていきます。音を聴きながらこきざみに音程を下げて、合わせてください。



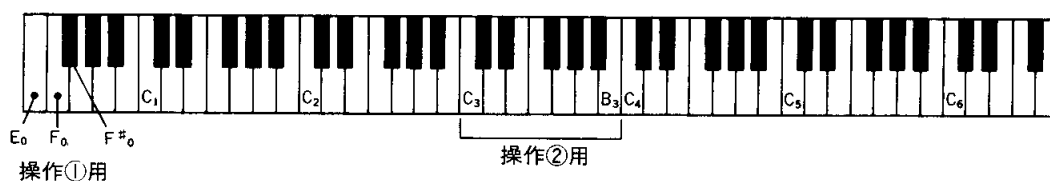
- ★電源スイッチをオンにした時は、いつも元の高さに戻っています。(A₃=440Hz)
- ★元の高さ(A₃=440Hz)に戻す時は電源を入れなおすか、またはA-1、A#-1、B-1の3鍵を同時に押しながら、C₃~B₃のいずれかの鍵盤を押してください。
- ★A₃=427Hz(約-50セント)~452Hz(約+50セント)の範囲、約3セントステップで設定でき、設定中は下図のようにピッチが表示され、設定後、約3秒でテンポ表示に戻ります。
(参考：100セント=半音)



ピッチコントロール機能(MLP-11)

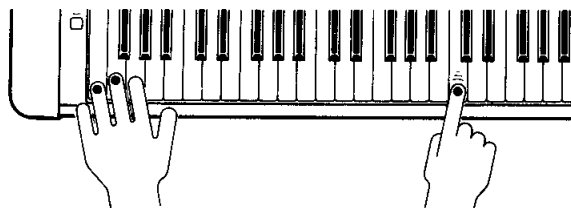
合奏の時などに、他の楽器と正確に音程を合わせることができます。つまり微妙に音程が異なる場合は、この機能を使って他の楽器と音の高さを合わせます。

■音程の合わせ方



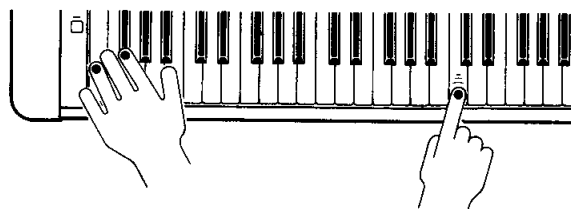
◆音程を上げる時

- ①上の図に示したE₀とF₀の鍵盤を同時に押しながら、
- ②C₃～B₃のいずれかの鍵盤を押します。1回押すごとに少しずつ音程が上がっていきます。音を聴きながらこきぎみに音程を上げて、合わせてください。



◆音程を下げる時

- ①上の図に示したE₀とF_{#0}の鍵盤を同時に押しながら、
- ②C₃～B₃のいずれかの鍵盤を押します。1回押すごとに少しずつ音程が下がっていきます。音を聴きながらこきぎみに音程を下げて、合わせてください。



★電源スイッチをオンにした時は、いつも元の高さに戻っています。(A₃=440Hz)

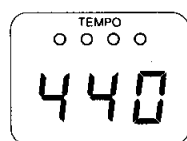
★元の高さ(A₃=440Hz)に戻す時は電源を入れなおすか、またはE₀、F₀、F_{#0}の3鍵を同時に押しながら、C₃～B₃のいずれかの鍵盤を押してください。

★A₃=427Hz(約-50セント)～452Hz(約+50セント)の範囲、約3セントステップで設定でき、設定中は下図のようにピッチが表示され、設定後、約3秒でテンポ表示に戻ります。

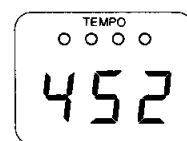
(参考:100セント=半音)



427Hz
(約-50セント)



440Hz
(0セント)



452Hz
(約+50セント)

パフォーマンスメモリー機能

演奏を録音できます。3つのトラックがありますので、1曲をいくつかの演奏パートに分けて、トラック1にはストリングス音のパートを、2にはピアノ音のパートを、3には……、というように多重録音できます。

※3つのトラックに異なった曲を録音することもできますが、テンポやリバーブを異なった設定にしておくことはできません。したがって、3つのトラックは上記のようにパート録音に使うことが基本です。

★次の内容を録音できます。そして、録音された通りに再生できます。つまり、たとえば曲の途中で音色を切り替えれば、再生時にも途中で切り替わります。

- ・鍵盤上の演奏情報
- ・音色の切替操作
- ・ペダル操作
- ・プリリアンスの切り替え
- ・リバーブの切り替え
- ・テンポの変更

★録音は何回でもやり直すことができますが、すでに録音済みのトラックに再度録音する場合は録音内容の消去(12ページ参照)を行ってからでないと、前回の録音容量より少なくなることがあります。

★録音済みのトラックを選んで少しでも録音すると、それまでそのトラックに録音されていたものは消えます。

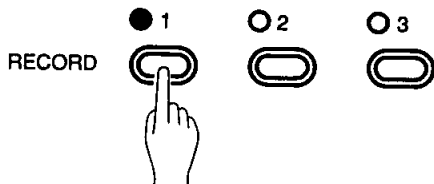
★電源を切ると録音した内容は消えます。(鍵盤蓋を閉めた時も同様です。)

録音

①録音シンクロスタート状態に

録音するトラックの録音ボタンを押します。すると4分音符のタイミングでメトロノーム音が鳴り始めます。この状態が録音シンクロスタート状態です。

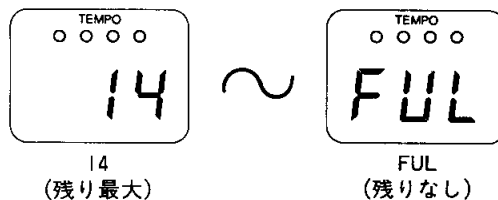
録音するトラックのランプを点灯させる。



★録音シンクロスタート状態とは、演奏を始めると(鍵盤を押すと)、録音が同時に開始される状態をいいます。

★録音ボタンを押している間は、そのトラックの番号(1~3)が表示されます。

★録音ボタンを押して離れた瞬間、14~0の範囲の数字が一瞬表示されますが、これは記憶容量の残りを表わします。大きな数字が表示されるほど、残りが多いということを意味します。なお、残りがなくなるとFULと表示されて、それ以上は録音できなくなります。

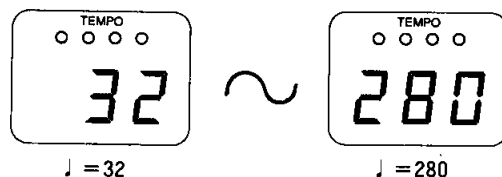
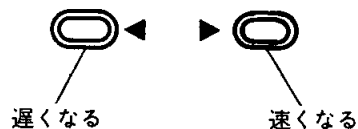


★1つのトラックで残りがなくなると、他のトラックにも録音できなくなります。

★録音を中止する場合には、押した録音ボタンをもう1度押してください。停止状態に戻すことができます。

②テンポの調節

テンポを調節します。テンポは、カウント音を聞きながら♩=32~280の範囲で調整できます。



★電源スイッチをオンにした時は、標準テンポの♩=120になっています。

★◀ボタンと▶ボタンを同時に押すことにより、標準テンポの♩=120に戻すことができます。

★メトロノーム音が不必要な時はメトロノームボタンを押して、メトロノーム音をオフにして録音することもできます。

③音色の選沢

音色を選沢します。

④録音の開始

演奏を始めます。すると録音も開始されます。

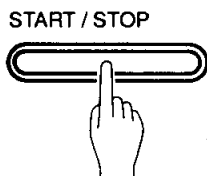
★録音が始まると、テンポ/小節数/拍子表示器内の点が1拍ごとに、左から右に点灯移動します。また小節数も表示されます。(小節数の表示は、4拍を1小節とした小節数です。)

★曲の初めに何拍かの無演奏部分が必要な場合は、スタート/ストップボタンを押してください。すると録音が始まりますので、必要な拍数だけ待ち、演奏を始めてください。

⑤録音の終了

スタート/ストップボタンを押して、録音を終了させます。録音を終了させると、録音ボタンが消灯に戻ります。

★録音していたトラックの録音ボタンを押して、録音を終了させることもできます。



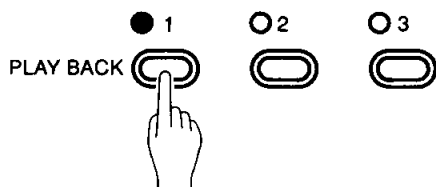
11

再生

①トラックの選択

再生するトラックの再生ボタンを押します。

再生するトラックのランプを点灯させる。



★再生を中止する場合には、押した再生ボタンをもう1度押してください。停止状態に戻すことができます。

②再生の開始

スタート/ストップボタンを押します。すると再生が開始されます。

★再生が始まると、テンポ/小節数/拍子表示器内の点が1拍ごとに、左から右に点灯移動します。また小節数も表示されます。(小節数の表示は、4拍を1小節とした小節数です。)

★再生音に合わせて演奏することができます。その場合は、スタート/ストップボタンを押さずにシンクロススタートボタンを押してください。そうすれば、鍵盤を押すのと同時に、再生をスタートさせることができます。

③再生の終了

最後まで再生されると自動的に停止に戻りますが、再生を途中でやめる場合は、スタート/ストップボタンを押します。

★録音していたトラックの再生ボタンを押して、再生を終了させることもできます。

多重録音

多重録音は、もともとレコード制作の世界から生まれたテクニックです。まず最初にトラック1に基本にするパートを録音。次にそれを再生しトラック2に別のパートを録音。さらに必要であればトラック1と2を再生させながら、トラック3にも……。これで完了です。最後に全てを一斉に再生できますから、あたかも大勢で演奏しているように聞こえます。

①トラック1の録音ボタンをオンしたうえで音色を選び、録音。

②トラック1の再生ボタンをオン。そしてトラック2の録音ボタンをオンしたうえでトラック2の音色を選び、録音。(トラック1の演奏に合わせて新パートを録音します。)

③トラック1と2の再生ボタンをオン。そしてトラック3の録音ボタンをオンしたうえでトラック3の音色を選び、録音。(トラック1、2の演奏に合わせて新パートを録音します。)

④最後にトラック1～3の再生ボタンを全て押して、3トラック全てを再生させます。さらに3トラックの再生に合わせて、4パート目を演奏することもできます。

★同時発音数には制限があります。最大同時発音数は、演奏と全トラックの再生音を合わせて16音(メトロノームを鳴らした場合は15音)です。

録音内容の消去

録音した内容を簡単に消去できます。

★消去はトラックごとに行うことができます。

- ①消去するトラックの録音ボタンを押します。
- ②スタート/ストップボタンを2回続けて押します。

録音後の初期設定の変更

録音済みのトラックの初期設定（音色、ブリリアンス、リバーブ、テンポ）を変えることができます。

★リバーブ、テンポの設定は、全トラック共通です。

★以下の操作の際、鍵盤を押したりスタート/ストップボタンを押したりしないでください。録音がスタートしてしまい、演奏内容が消えてしまいます。

- ①初期設定を変えるトラックの録音ボタンを押します。
- ②音色、ブリリアンス、リバーブ、テンポの各設定をします。
- ③もう一度録音ボタンを押してランプを消灯させます。

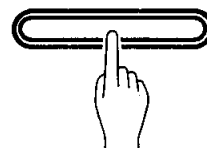
コミュニケーション機能

生徒が先生に質問がある場合に、席を立ったり、大きな声を出さなくてもいいように、コミュニケーション機能があります。コミュニケーション機能は、先生と会話するための機能です。ここでは、生徒が先生と会話をするまでの手順を紹介します。

- ①生徒は、先生を呼び出すためコールボタンを押します。

押すと点灯する

● CALL



- ②先生は調整卓上のランプの点滅により、生徒からの呼び出しがあったことを知り、点滅しているボタンを押します。

- ③生徒のコールボタンのランプが消灯し、先生と生徒は互いにマイク付きヘッドホンで会話をします。

- ④先生が調整卓上でもう一度ボタンを押した時点で、会話は終了です。

★誤ってコールボタンを押してしまった場合は、もう一度押せば呼び出しを解除できます。(コールボタンのランプが消灯すると共に、調整卓のランプも消灯します。)

★その他詳細につきましては、調整卓の取扱説明書を参照してください。

多重録音 してみましよう

右ページの曲を各パートごとに演奏し録音してみましよう。

- ①テンポを決めます。♩=108がこの曲の標準です。
- ②トラック1の録音ボタンを押します。すると、メトロノームの音が聞こえ始めます。そして、ピアノの音色のボタンを押します。
- ③ピアノパートを演奏します。終わったら、スタート/ストップボタンを押します。(弾き出すと同時に録音が始まります。間違えたら②③の工程を繰り返します。)
- ④再生して録音した演奏を確認します。トラック1の再生ボタンを押し(トラック1再生ボタンのランプの点灯を確認)、スタート/ストップボタンを押します。
- ⑤トラック2の録音ボタンを押し、次にクワイアの音色のボタンを押します。
- ⑥クワイアパートを演奏します。終わったら、スタート/ストップボタンを押します。(先に録音したパートが聞こえます。それに合わせて演奏してください。)
- ⑦再生して、録音した演奏を確認します。トラック2の再生ボタンを押し(トラック1、2再生ボタンのランプの点灯を確認)、スタート/ストップボタンを押します。
- ⑧トラック3の録音ボタンを押し、次にバイブの音色のボタンを押します。
- ⑨バイブパートを演奏します。終わったら、スタート/ストップボタンを押します。(先に録音したパートが聞こえます。それに合わせて演奏してください。)
- ⑩再生して、録音した演奏を確認します。トラック3の再生ボタンを押し(トラック1~3再生ボタンのランプの点灯を確認)、スタート/ストップボタンを押します。(ピアノ、クワイア、バイブによるアンサンブルが再生されます。)

ドイツ民謡

♩ = 108

ピアノ

トラック 1

simile

トラック 2

クワイア

トラック 3

パイプ

Detailed description: This system contains three staves. The top staff (Track 1) is for piano accompaniment in 3/4 time, starting with a treble clef and a key signature of one flat. It features a melody with eighth and sixteenth notes, some beamed together, and rests. The word 'simile' is written below the staff. The middle staff (Track 2) is for clarinet (クワイア), showing a melodic line with a long slur over several measures. The bottom staff (Track 3) is for pipe (パイプ), featuring a rhythmic melody with eighth and sixteenth notes.

トラック 1

ピアノ

トラック 2

クワイア

トラック 3

パイプ

Detailed description: This system continues the music from the first system. It also consists of three staves. The top staff (Track 1) is for piano accompaniment, continuing the melodic line. The middle staff (Track 2) is for clarinet (クワイア), continuing its melodic part with a slur. The bottom staff (Track 3) is for pipe (パイプ), continuing its rhythmic melody. The system concludes with a double bar line.

MIDIで システムを拡張

MLP-51/MLP-11はIDI機能(MIDI端子)をもった楽器です。ここでは、MIDI端子の説明やMIDI機能を使ってできること、MIDIに関する設定方法などを順に紹介します。

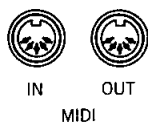
MIDIとは？

MIDIという言葉はミュージカル・インストゥルメント・デジタル・インターフェイス(Musical Instrument Digital Interface)の頭文字をとったもので、“ミディ”と読みます。MIDIは、2台以上のMIDI製品を接続して、それらの間で、演奏にまつわる様々なコントロールをさせようという目的で考え出された世界統一規格です。つまりMIDI機能は、他のMIDI規格の製品と接続して初めて使え道があるわけです。

(MIDI製品には必ずMIDI端子があります。)

本機のMIDI端子

本機には、次のように2種類のMIDI端子があります。(MIDI端子の種類には3種類あり、他のMIDI製品にはこれ以外にMIDI THRUという端子が付いていることがあります。)



MIDI OUT(ミディアウト)

MLP-51/MLP-11での演奏内容等が出力されます。

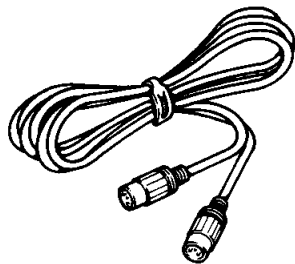
MIDI IN(ミディイン)

他のMIDI製品からの演奏内容等を入力できます。

★MIDI接続には、別売のMIDIケーブルが必要です。

MIDIケーブル (MIDI-15: 15m) ¥3,000

(MIDI-03: 3m) ¥1,100

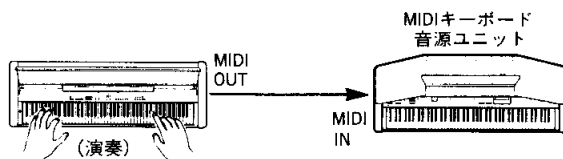


MIDIのできるこ

MIDIで何が出来るかは、接続した機器との相性で決まります。簡単にいえば、両製品に共通したMIDI機能なら、とりあえず可能性ありということになります。MIDI製品と一口にいっても実に様々なものがありますので、ここでは代表的なものを選んで“できること”を紹介します。接続する製品の取扱説明書も合わせてご覧ください。

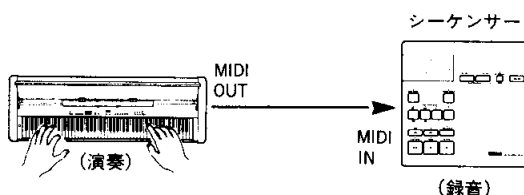
MIDI OUT端子を使ってできること

◆MIDIキーボードまたは音源ユニットを接続した場合



- ★MLP-51/MLP-11で演奏すると、接続した製品もそれ自身の音色で同時に鳴り、音に厚みがでます。
- ★MLP-51/MLP-11で音色を切り替えると、接続した製品の音色も同時に切り替わります。
- ★この他に下記のように情報を出力する機能があります。相手側が情報を受けてどう対応するかは、相手側のMIDI機能によって決まります。
 - ・ペダルを操作した時……ペダルを踏んだ/離れたを意味する情報を出力
 - ・パネルデータバルクダンプリクエストを受信した時……パネル上の設定状態を出力
- ※MIDIとは直接は関係ありませんが、相手側の音をMLP-51/MLP-11のオプション端子 (OPTIONAL IN)から入力して、MLP-51/MLP-11のスピーカーでいっしょに鳴らすこともできます。
- ※MLP-51/MLP-11もMIDIキーボードです。したがって相手側のMIDIキーボードとして、もう1台のMLP-51/MLP-11を用いることも考えられます。
- ※音源ユニットは簡単にいうとキーボードから鍵盤を除いたもの(=音源まわりを残したもの)だと思ってください。

◆MIDIシーケンサーを接続した場合

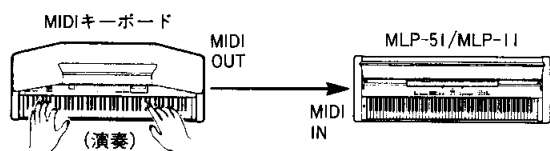


★MLP-51/MLP-11での演奏内容を、MIDIシーケンサー（ディスクレコーダーDRC-20、ディスクオーケストラモジュールDOM-30等）に録音できます。MIDIシーケンサーに録音すれば、録音容量を増やすことができます。もちろんMLP-51/MLP-11に記録した場合と同様に、後でそれを自由に再生できます。

※MIDIシーケンサーには、演奏内容だけでなく、音色の切替情報やイクスクループ情報（後述）を記録できるものもあります。

MIDI IN端子を使ってできること

◆MIDIキーボードに接続した場合



★外部のMIDIキーボードで演奏すると、MLP-51/MLP-11もMLP-51/MLP-11自身の音色で同時に鳴り、音に厚みができます。

★外部のMIDIキーボードで音色を切り替えると、MLP-51/MLP-11の音色も同時に切り替わります。

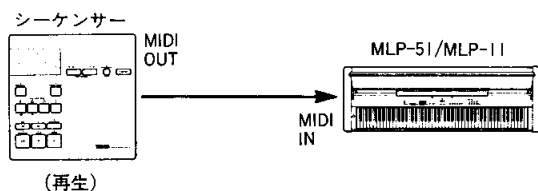
★この他に下記のような情報を入力してMLP-51/MLP-11をコントロール可能です。

- ・ペダル効果をコントロールする情報
- ・ボリュームをコントロールする情報
- ・パネルデータバルクランプのリクエスト情報

※MIDIとは直接は関係ありませんが、演奏側キーボードの音をMLP-51/MLP-11のオプション端子(OPTIONAL IN)から入力して、MLP-51/MLP-11のスピーカーでいっしょに鳴らすこともできます。

※MLP-51/MLP-11もMIDIキーボードです。したがって外部のMIDIキーボードに、もう1台のMLP-51/MLP-11を用いることも考えられます。

◆MIDIシーケンサーに接続した場合



★MIDIシーケンサーに記録済みの演奏内容を、MLP-51/MLP-11の音色で再生できます。

MIDI関係の設定・機能

MIDIの機能を使う場合にもやはり設定が必要です。

◆MIDIチャンネルの設定

MIDIの世界にも、テレビと同じようにチャンネルがあります。MIDIには1から16チャンネルまであり（テレビの場合は1から62です）、ほとんどのMIDI情報に“この情報は〇〇チャンネルだよ”という信号が含まれています。そもそもなぜチャンネルが必要かというと、たとえばシーケンサーを再生した場合、シーケンサーのMIDI OUT端子からはいくつかのチャンネルの情報が次々に出力されます。そして1本のMIDIケーブルの中をいくつかのチャンネルの情報がいっしょに流れます。幸いにして各情報にはMIDIチャンネルが付けられていますので、受信側の製品でチャンネルを指定してやれば、必要なそのチャンネルの情報だけを選んで受け取ることができるわけです。

そして、最も一般的なMIDIキーボードとMIDIキーボードの接続の場合にも、送信側の送信チャンネルと受信側の受信チャンネルを一致させなければ、受信側で情報を受け取ることができませんので、受信側で当然音は鳴りません。

- ・チャンネルの信号が含まれていると都合の悪い情報には、チャンネル信号は逆に含まれていません。

送信チャンネルの設定方法

- ①MIDI/トランスポートボタンを押しながら、
- ②ピアノボタンを押して、そのままMIDI/トランスポートボタンだけは離さずに、
- ③テンポボタンを押して設定します。

・送信チャンネル1に切り替える場合……………S1

・送信チャンネル16に切り替える場合……………S16

★電源スイッチをオンにした時は、いつも送信チャンネル=1が選ばれています。

受信チャンネルの設定方法

- ①MIDI/トランスポートボタンを押しながら、
- ②ハープシコードボタンを押して、そのままMIDI/トランスポートボタンだけは離さずに、
- ③テンポボタンを押して設定します。

・オムニオフ+受信チャンネル1に切り替える場合……………r1

16に切り替える場合……………r16

・オムニオンに切り替える場合……………ALL

※オムニオンは、チャンネル設定に関係なく、どのチャンネルのボイスメッセージ（鍵盤、ペダル、音色スイッチ等）でも受信する状態です。

★電源スイッチをオンにした時は、いつも受信チャンネル＝オムニオンが選ばれています。

◆ローカルコントロールオン/オフの切替

ローカルコントロールオフという状態にすると、MLP-51/MLP-11で演奏したにもかかわらずMLP-51/MLP-11自身では鳴らなくなります。ただしMIDI OUT端子からは、オン/オフにかかわらず演奏情報が出力されます。

つまりローカルコントロールオフは、あえて外部の製品側だけで鳴らしたい場合に、MLP-51/MLP-11で音が出ないようにするためのものです。

オン/オフの切替方法

- ①MIDI/トランスポートボタンを押しながら、
- ②パイプボタンを押します。

- ・ローカルコントロールオフにする場合………パイプのランプを点灯させる。
- ・ローカルコントロールオンに戻す場合………パイプのランプを消灯させる。

★MLP-51/MLP-11を受信側にした場合は、この設定は一切関係ありません。

★電源スイッチをオンにした時は、いつもローカルコントロールオンが選ばれています。

◆プログラムチェンジオン/オフの切替

プログラムチェンジオフという状態にすると、MLP-51/MLP-11で音色を切り替えても、MIDI OUT端子へ音色の切替情報を出力しなくなります。また、MIDI IN端子から音色切替情報を受けてもMLP-51/MLP-11の音色は切り替わらなくなります。

つまり、MLP-51/MLP-11だけで単独に音色を切り替えたい場合には、プログラムチェンジオフにしてください。

オン/オフの切替方法

- ①MIDI/トランスポートボタンを押しながら、
- ②クワイアボタンを押します。

- ・プログラムチェンジオフにする場合………クワイアのランプを点灯させる。
- ・プログラムチェンジオンに戻す場合………クワイアのランプを消灯させる。

★電源スイッチをオンにした時は、いつもプログラムチェンジオンが選ばれています。

◆コントロールチェンジオン/オフの切替

コントロールチェンジオフという状態にすると、MLP-51/MLP-11でペダルなどを操作しても、MIDI OUT端子へそれらの情報を出力しなくなります。また、MIDI IN端子からそれらの情報を受けても、MLP-51/MLP-11はそれに応じなくなります。

つまり、MLP-51/MLP-11だけで単独にペダルを操作したい場合には、コントロールチェンジオフにしてください。

オン/オフの切替方法

- ①MIDI/トランスポートボタンを押しながら、
 - ②ストリングスボタンを押します。
- ・コントロールチェンジオフにする場合………ストリングスのランプを点灯させる。
 - ・コントロールチェンジオンに戻す場合………ストリングスのランプを消灯させる。

★電源スイッチをオンにした時は、いつもコントロールチェンジオンが選ばれています。

◆マルチティンバーモードオン/オフの切替

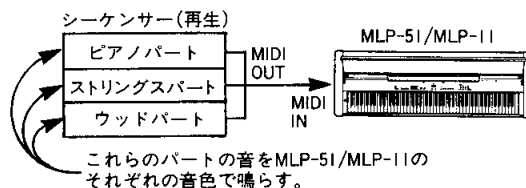
マルチティンバーモードオンという状態にすると、チャンネル1～10のどのチャンネルの情報でも受信できるようになります。

たとえばシーケンサーに記録されている複数のチャンネルの演奏情報をMLP-51/MLP-11に受信させ、それぞれの音色で同時に鳴らしたい時に、マルチティンバーモードオンにします。

オン/オフの切替方法

- ①MIDI/トランスポートボタンを押しながら、
 - ②ウッドボタンを押します。
- ・マルチティンバーモードオンにする場合………ウッドのランプを点灯させる。
 - ・マルチティンバーモードオフに戻す場合………ウッドのランプを消灯させる。

★マルチティンバーモードの代表的な使用例は次のとおりです。



つまり(別々のチャンネルで)シーケンサーに記録された様々なパートの演奏を、MLP-51/MLP-11 1台で再生できます。(つまり、アンサンブルを楽しむことができます。)

★電源スイッチをオンにした時は、いつもマルチティンバーモードオフが選ばれています。

★同時に発音できるのは16音までです。

◆レッスンモードの切替

ディスクレコーダーEMQ-1 にエデュケーショナルシリーズという再生専用ソフトを組み合わせて、それをMLP-51/MLP-11を使って鳴らす場合のみ関係します。エデュケーショナルシリーズは左手パートと右手パートを独立させて再生できるソフトです。

このレッスンモード機能は、どちらかのパートを再生させて、それを聴きながらもう片方を練習できるようにしよう、というものです。

★左手パートはチャンネル2で、右手パートはチャンネル1でやりとりします。

左手レッスンモードにする場合

- ①MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、
- ②A-1(MLP-11の場合はE0)の鍵盤を押します。すると、左手レッスン(右手再生)モードになり、右手パートを再生させながら、左手パートを練習することが可能になります。

★このモードにすると、オムニオフ+受信チャンネル1になります。

右手レッスンモードにする場合

- ①MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、
- ②B-1(MLP-11の場合はF0)の鍵盤を押します。すると、右手レッスン(左手再生)モードになり、左手パートを再生させながら、右手パートを練習することが可能になります。

★このモードにすると、オムニオフ+受信チャンネル2になります。

両手再生モードにする場合

- ①MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、
- ②A-1とB-1(MLP-11の場合はE0とF0)の鍵盤の両方を押します。すると両手再生モードになり、両パートを再生させることが可能になります。

★このモードにすると、オムニオン+受信チャンネル1になります。

MIDIデータフォーマット

MIDIデータフォーマットを読める方はご覧ください。MLP-51/MLP-11のMIDI仕様を素早く調べたり、細かく知るうえで役立つことがあります。

1.送信データ

1-1.チャンネルインフォメーション

◆チャンネルボイスメッセージ

- ①ノートオン/オフ：鍵盤を押した時に送信します。

ステータス	1001nnnn(9nH)	n=0(チャンネルNo.1)~15(チャンネルNo.16)
ノートNo.	0kkkkkkk	MLP-51 k=21(A ₁)~108(G ₂) MLP-11 k=28(E ₂)~103(G ₂)
ベロシティ	0vvvvvvv	v=0~127(1~127:キーオン,0:キーオフ)

- ②コントロールチェンジ：ダンパー、ソステヌート、ソフトは各ペダル操作をした時に送信します。

ステータス	1011nnnn(BnH)	n=0(チャンネルNo.1)~15(チャンネルNo.16)
コントロールNo.	0ccccccc	c=7(ボリューム)、11(エクスプレッション)、 64(ダンパー)、66(ソステヌート)、 67(ソフト)
コントロール値	0vvvvvvv	ボリューム、エクスプレッション v=0(最小)、111(-3dB)、127(最大) ダンパー、ソステヌート、ソフト v=0(オフ)、127(オン)

- ③プログラムチェンジ：音色を切り替えた時に送信します。

ステータス	1100nnnn(CnH)	n=0(チャンネルNo.1)~15(チャンネルNo.16)
プログラムNo.	0ppppppp	p=0(ピアノ)、1(ハーブシコード)、 2(バイブ)、3(クワイア)、 4(ストリングス)、5(ウッド)

1-2.システムインフォメーション

◆システムリアルタイムメッセージ

- ①タイミングブロック：パフォーマンスメモリーの録音または再生中に送信します。

ステータス	11111000(F8H)
-------	---------------

- ②スタート：パフォーマンスメモリーの録音または再生ボタンが押されている時に、スタート/ストップボタンを押すと送信します。

ステータス	11111010(FAH)
-------	---------------

- ③ストップ：パフォーマンスメモリーの録音または再生ボタンが押されている時に、スタート/ストップボタンを押すと送信します。

ステータス	11111100(FCH)
-------	---------------

- ④アクティブセンシング：約200msecごとに1回送信します。

ステータス	11111110(FEH)
-------	---------------

◆システムイクスクルーシブメッセージ

- ①パネルデータバルクダンプ：パネルデータバルクダンプリクエストを受信した時に送信します。

ステータス	11110000(F0H)	"システムイクスクルーシブ"
YAMAHA ID No.	01000011(43H)	"ヤマハ"
サブステータス	0000nnnn(0nH)	n=0(チャンネルNo.1)~15(チャンネルNo.16)
フォーマットNo.	01111100(7CH)	"パネルデータバルクダンプ"
バイトカウント	00000000(00H)	
バイトカウント	0bbbbbbb	
	01010011(53H)	"S"
	01001011(4BH)	"K"
	00100000(20H)	スペース
	00100000(20H)	スペース
	00110010(32H)	"2"
	00110001(31H)	"1"
	00110111(37H)	"7"
	00111000(38H)	"8"
	00100000(20H)	スペース
	00100000(20H)	スペース
バージョンNo.	00000001(01H)	
	00000000(00H)	
データ	0ddddddd	d=0(ピアノ)、1(ハーブシコード)、 2(パイプ)、3(クワイア)、 4(ストリングス)、5(ウッド)
データ	0ddddddd	d=0(オフ)、1(ルーム)、 2(ホール1)、3(ホール2)、 4(コズミック)
データ	0ddddddd	d=0(ノーマル)、1(メロウ)、 2(ブライト)
データ	0ddddddd	テンポ下位
データ	0ddddddd	テンポ上位
チェックサム	0eeeeeee	
EOX	11110111(F7H)	

②モデルIDコードバルクダンプ：モデルIDコードバルク
ダンプリクエストを受
信した時に送信します。

ステータス	11110000(F0H)	"システムイクスクルーシブ"
YAMAHA ID No.	01000011(43H)	"ヤマハ"
サブステータス	0000nnnn(0nH)	n=0(チャンネルNo.1)~15(チャンネルNo.16)
フォーマットNo.	01111101(7DH)	"モデルIDコードバルクダンプ"
バイトカウント	00000000(00H)	
バイトカウント	00010000(10H)	
	01010011(53H)	"S"
	01001011(4BH)	"K"
	00100000(20H)	スペース
	00100000(20H)	スペース
	00110010(32H)	"2"
	00110001(31H)	"1"
	00110111(37H)	"7"
	00111000(38H)	"8"
	00100000(20H)	スペース
	00100000(20H)	スペース
バージョンNo.	00000010(01H)	
	00000000(00H)	
	00000000(00H)	
	00000000(00H)	
	00000000(00H)	
	00000000(00H)	
	00000000(00H)	
チェックサム	0eeeeeee	
EOX	11110111(F7H)	

③ブリリアンス・セットアップデータ：
ブリリアンススイッチを切り替えた時に送信します。

ステータス	11110000(F0H)	"システムイクスクルーシブ"
YAMAHA ID No.	01000011(43H)	"ヤマハ"
機種ID	01001001(73H)	"クラビノーバ"
機種ID	0kkkkkkk	k=1(共通ID)、40(MLP-51/MLP-11)
特殊操作子	00110001(11H)	
チャンネル	00000000(00H)	"チャンネル毎"
コントロールNo.	01011000(58H)	"ブリリアンス"
コントロール値	0ddddddd	d=0(ノーマル)、1(メロウ)、2(ブライト)
EOX	11110111(F7H)	

④リバーブ・セットアップデータ：リバーブ切替スイッ
チを切り替えた時に
送信します。

ステータス	11110000(F0H)	"システムイクスクルーシブ"
YAMAHA ID No.	01000011(43H)	"ヤマハ"
機種ID	01001001(73H)	"クラビノーバ"
機種ID	0kkkkkkk	k=1(共通ID)、40(MLP-51/MLP-11)
特殊操作子	00010001(11H)	
チャンネル	00001111(0FH)	"チャンネル16コントロール"
コントロールNo.	01011001(59H)	"リバーブ"
コントロール値	0ddddddd	d=0(オフ)、1(ルーム)、2(ホール1) 3(ホール2)、4(コズミック)
EOX	11110111(F7H)	

⑤パフォーマンスメモリー・セットアップデータ：パフ
ォーマンスメモリーの各操作をした時に送信します。

ステータス	11110000(F0H)	"システムヤマハイクスクルーシブ"
YAMAHA ID No.	01000011(43H)	"ヤマハ"
機種ID	01001001(73H)	"クラビノーバ"
機種ID	0kkkkkkk	k=1(共通ID)、40(MLP-51/MLP-11)
特殊操作子	00010001(11H)	
チャンネル	0000nnnn	n=0(トラック1)、1(トラック2)、2(トラック3)
コントロールNo.	01111111(7FH)	"パフォーマンスメモリー"
コントロール値	0ddddddd	d=32(録音オン)、33(録音オフ)、 34(再生オン)、35(再生オフ)
EOX	11110111(F7H)	

⑥テンポ・セットアップデータ：テンポ変更の操作をし
た時に送信します。

ステータス	11110000(F0H)	"システムイクスクルーシブ"
YAMAHA ID No.	01000011(43H)	"ヤマハ"
機種ID	01001001(73H)	"クラビノーバ"
機種ID	0kkkkkkk	k=1(共通ID)、40(MLP-51/MLP-11)
特殊操作子	00010001(11H)	
チャンネル	00011111(1FH)	"チャンネル16コントロール"
コントロールNo.	0ddddddd	テンポ下位
コントロール値	0ddddddd	テンポ上位
EOX	11110111(F7H)	

2.受信データ

2-1.チャンネルインフォメーション

◆チャンネルボイスメッセージ

①ノートオン/オフ：ノートNo.によって発音の音程が決
まり、ペロシティによって音量が
決まります。

ステータス	1001nnnn(9nH)	n=0(チャンネルNo.1)~15(チャンネルNo.16)
ノートNo.	0kkkkkkk	k=21(A-1)~108(C7)
ペロシティ	0vvvvvvv	v=0~127(1~127:キーオン、0:キーオフ)

②ノートオフ：ノートオフをステータス8nHで送り出す
機器との対応のためです。

ステータス	1000nnnn(8nH)	n=0(チャンネルNo.1)~15(チャンネルNo.16)
ノートNo.	0kkkkkkk	k=21(A-1)~108(C7)
ペロシティ	0vvvvvvv	v=無視します。

③コントロールチェンジ：メッセージに従って各対応を
します。

ステータス	1011nnnn(8nH)	n=0(チャンネルNo.1)~15(チャンネルNo.16)
コントロールNo.	0ccccccc	c=7(ボリューム)、11(エクスプレッション)、 64(ダンパー)、66(ソステヌート)、 67(ソフト)
コントロール値	0vvvvvvv	ボリューム、エクスプレッション v=0(最小)、111(-3dB)、127(最大) ダンパー、ソステヌート、ソフト v=0~63(オフ)、64~127(オン)

- ④プログラムチェンジ：プログラムNo.によって音色が決まります。なお、指定番号よりプログラムNo.の大きいメッセージは無視します。

ステータス	1100nnnn(CnH)	n=0(チャンネルNo.1)~15(チャンネルNo.16)
プログラムNo.	0ppppppp	p=0(ピアノ)、1(ハーブシコード)、 2(パイプ)、3(クワイア)、 4(ストリングス)、5(ウッド)

◆チャンネルモードメッセージ

メッセージに従って各対応をします。

ステータス	1011nnnn(BnH)	n=0(チャンネルNo.1)~15(チャンネルNo.16)
コントロールNo.	0ccccccc	c=121(リセットオールコントローラー*)、 122(ローカルコントローラー)、 123(オールノートオフ*)、 124(オムニオフ/オールノートオフ)、 125(オムニオン/オールノートオフ)、 ローカルコントロール v=0(オフ)、127(オン) ローカルコントロール以外 v=0
コントロール値	0wwwww	

*リセットオールコントローラーおよびオールノートオフは、オムニオフの時のみ認識します。

2-2. システムインフォメーション

◆システムリアルタイムメッセージ

- ①スタート：パフォーマンスメモリーの録音または再生ボタンが押されている時に受信すると、録音または再生がスタートします。

ステータス 11111010(FAH)

- ②ストップ：パフォーマンスメモリーの録音または再生ボタンが押されている時に受信すると、録音または再生が停止します。

ステータス 11111100(FCH)

- ③アクティブセンシング：受信すると、センシングを開始します。その後400msecの間ステータスもデータもこない場合には、発音を強制的に停止させます。

ステータス 11111110(FEH)

◆システムイクスクルーシブメッセージ

- ①パネルデータバルクダンプリクエスト：このメッセージを受信すると、パネルデータを送信します。

ステータス	11110000(FOH)	"システムイクスクルーシブ"
YAMAHA ID No.	01000011(43H)	"ヤマハ"
サブステータス	0010nnnn(2nH)	n=0(チャンネルNo.1)~15(チャンネルNo.16)
フォーマットNo.	01111100(7CH)	"パネルデータバルクダンプリクエスト"
EOX	11110111(F7H)	

- ②モデルIDコードバルクダンプリクエスト：このメッセージを受信すると、モデルIDコードを送信します。

ステータス	11110000(FOH)	"システムイクスクルーシブ"
YAMAHA ID No.	01000011(43H)	"ヤマハ"
サブステータス	0010nnnn(2nH)	n=0(チャンネルNo.1)~15(チャンネルNo.16)
フォーマットNo.	01111101(7DH)	"モデルIDコードバルクダンプリクエスト"
EOX	11110111(F7H)	

- ③パネルバルクデータ：このメッセージを受信すると、パネル上の各設定が変わります。(ボリュームは動きません)データについては、“送信データ”の項を参照。

- ④マルチティンバーモードオフ：このメッセージを受信すると、マルチティンバーモードオフになります。

ステータス	11110000(FOH)	"システムイクスクルーシブ"
YAMAHA ID No.	01000011(43H)	"ヤマハ"
SK ID	01110011(73H)	
機種ID	01111111	i=1(共通ID)、40(MLP-51/MLP-11)
データ	00010011(13H)	
EOX	11110111(F7H)	

- ⑤マルチティンバーモードオン：このメッセージを受信すると、各モードになります。

ステータス	11110000(FOH)	"システムイクスクルーシブ"
YAMAHA ID No.	01000011(43H)	"ヤマハ"
SK ID	01110011(73H)	
機種ID	01111111	i=1(共通ID)、40(MLP-51/MLP-11)
データ	00010101(15H)	マルチティンバーモードオン
EOX	11110111(F7H)	

- ⑥ブリリアンス・セットアップデータ：このメッセージを受信すると、ブリリアンスの設定が切り替わります。(“送信データ”の項を参照)

- ⑦リバーブ・セットアップデータ：このメッセージを受信すると、リバーブの設定が切り替わります。(“送信データ”の項を参照)

- ⑧パフォーマンスメモリー・セットアップデータ：このメッセージを受信すると、パフォーマンスメモリーの各ボタンがオン/オフされます。(“送信データ”を参照)

- ⑨テンポ・セットアップデータ：このメッセージを受信すると、テンポ変更されます。(“送信データ”の項を参照)

仕様

- **鍵盤**：MLP-51=88鍵(A-1~C7)イニシャルタッチ付
MLP-11=76鍵(E₀~G₆)イニシャルタッチ付
- **音色**：ピアノ、ハープシコード、バイブ、クワイア、ストリングス、ウッド
- **効果・機能**：プリリアンス、メトロノーム、リバーブ、トランスポーズ、ピッチコントロール、パフォーマンスメモリー、コミュニケーション
- **コントロール**：電源スイッチ、スピーカー、コール、ボリューム、リバーブ、プリリアンス、メトロノーム、テンポ、音色選択、パフォーマンスメモリー、ソフト/ソステヌート、ダンパー
- **付属端子**：生徒用ヘッドホン端子、先生用ヘッドホン端子(×2)、マイク端子(×2)、MIDI端子(IN, OUT)、オプション端子(IN L, IN R, OUT L, OUT R)
- **メインアンプ**：10W×2
- **スピーカー**：16cm×2
- **定格電源**：AC100V 50/60Hz
- **消費電力**：30W
- **外装**：
MLP-51 仕上げ；ブラックローズウッド調仕上げ、間口；139.1cm、奥行；48.0cm、高さ；80.9cm、重量；59.0kg
MLP-11 仕上げ；ブラックローズウッド調仕上げ、間口；122.6cm、奥行；48.0cm、高さ；80.9cm、重量；53.5kg
- **装備**：鍵盤蓋、折りたたみ式譜面立て

MIDIインプリメンテーションチャート

Date:1990.6.1
Version:1.0

ファンクション…	送	信	受	信	備	考
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能	1チャンネル 1~16チャンネル	1チャンネル 1~16チャンネル			
モード	電源ON時 メッセージ 代用	モード 3 × *****	モード 1 オムニ・オン、オムニ・オフ ×			
ノート ナンバー	音域	21~108 *****	21~108 21~108			
ベロシティ	ノート・オン ノート・オフ	○ 9nH、V=1~127 × 9nH、V=0	○ V=1~127 ×			
アフター タッチ	キー別 チャンネル別	× ×	× ×			
ピッチ・ベンダー		×	×			
コントロール チェンジ		07 ○ ※1 11 ○ ※1 64 ○ 66 ○ 67 ○ 121 ×	○ ○ ○ ○ ○ ○		ボリューム エクスプレッションペダル ダンパーペダル ソステヌートペダル ソフトペダル リセットオールコントローラー ※2	
プログラム チェンジ	設定可能範囲	○ 0~5 *****	○ 0~5 0~5			
エクスクルーシブ		○	○			
コモン	ソング・ポジション ソング・セレクト チェーン	× × ×	× × ×			
リアル タイム	クロック コマンド	○ ○	× ○			
その他	ローカル ON/OFF オール・ノート・オフ アクティブ・センシング リセット	× × ○ ×	○ ○ (123~125) ※1 ○ ×			
備考	※1 パフォーマンスメモリーに記憶されており、それを再生した時。 ※2 121および123はオムニ・オフ時にのみ受信可能。					

モード 1: オムニ・オン, ポリ モード 2: オムニ・オン, モノ ○: あり
 モード 3: オムニ・オフ, ポリ モード 4: オムニ・オフ, モノ ×: なし

サービスと保証

サービスのご依頼は、お買い上げ店へお申し付けください。

- 本機の保証は、保証書によりご購入から満1ヵ年です。
(日本国内のみ有効)
- 保証期間の1ヵ年を過ぎても有償にて責任をもってサービスを実施いたします。尚、補修用性能部品の保有期間は製造打切り後最低8年となっております。また、保証期間中の修理などサービスについてご不明の場合は、お買い上げ店か右記、お近くのサービス網宛お問い合わせください。

■お買い上げ店による修理調整

故障の場合は、直接お買い上げ店にご連絡ください。責任を持って修理調整をいたします。

■サービスのご依頼

サービスをご依頼なさるときは、お名前、ご住所、電話番号などをハッキリお知らせください。またお勤めで昼間ご不在の方は、お勤め先の電話番号、もしくは連絡方法をお知らせください。(楽器の具合をもう少し詳しくおたずねしたいときや、万一やむをえぬ事情によって、お約束を変更しなければならないようなときにお客さまにご迷惑をおかけしないですみます。)

ヤマハ電気音響製品サービス拠点

(修理受付および修理品お持込み窓口)

北海道サービスセンター	〒064 札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内 TEL. 011(513)5036
仙台サービスセンター	〒983 仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F TEL. 022(236)0249
首都圏サービスセンター	〒211 川崎市中原区木月1184 TEL. 044(434)3100
東京サービスステーション*	〒108 東京都港区高輪2-17-11 (*修理品お持込み窓口) TEL. 03(5488)6625
浜松サービスセンター	〒435 浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内 TEL. 053(465)6711
名古屋サービスセンター	〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ(株)名古屋流通センター3F TEL. 052(652)2230
大阪サービスセンター	〒565 吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ(株)千里丘センター内 TEL. 06(877)5262
四国サービスセンター	〒760 高松市丸亀町8-7 ヤマハミュージック高松店内 TEL. 0878(22)3045
広島サービスセンター	〒731-01 広島市安佐南区西原6-14-14 TEL. 082(874)3787
九州サービスセンター	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL. 092(472)2134
(本 社)	
カスタマーサービス部	〒435 浜松市上西町911 ヤマハ(株)宮竹工場内 TEL. 053(465)1158

北海道支店/〒064 札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内
地区営業課 TEL. 011(512)6114

仙台支店/〒980 仙台市青葉区大町2-2-10 住友生命青葉通りビル
地区営業課 TEL. 022(222)6144

東京支店/〒108 東京都港区高輪2丁目17-11
営業推進課 TEL. 03(5488)5464

関東支店/〒108 東京都港区高輪2丁目17-11
営業推進課 TEL. 03(5488)1680

名古屋支店/〒460 名古屋市中区錦1-18-28
営業推進課 TEL. 052(201)5145

大阪支店/〒542 大阪市中央区南船場3-12-9 心斎橋ブラザビル東館
営業推進課 TEL. 06(252)2390

広島支店/〒730 広島市中区紙屋町1-1-18
営業推進課 TEL. 082(244)3748

九州支店/〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
営業推進課 TEL. 092(472)2152

電子楽器営業部

クラビノーバ営業課/〒430 浜松市中沢町10-1
TEL. 053(460)3275

※住所および電話番号は変更になる場合があります。